

らぶらす

ライブラリーニュース Vol.23



女性の自伝・評伝

女性は自伝を書くときですら、社会規範に合わせて自分の思いや感情に正直でいられない、という時代が続ききました。例えば、怒りや“自分の人生は自分で決めたい”という欲求を表現するのは、女らしくないと考えられていました。

アメリカの詩人で小説家、自伝作家でもあるメイ・サートンの『独り居の日記』(1973年)は、それまでの作品では表わされなかった、人生に対する激しい怒りや葛藤、絶望を綴りなおしたことによって、女性の自伝における分岐点とみなされました。

今号は、女性の自伝・評伝をテーマに所蔵の図書を特集しました。紹介した図書のほかにも、伝記や「女性の書く自伝」をテーマにした図書や資料が多数あります。一人ひとり違う、女性のさまざまな人生をお手に取ってみてください。



『独り居の日記』
メイ・サートン 著
武田 尚子 訳
みすず書房

『私には山がある 大きな愛に包まれて』

田部井 淳子 著
PHP研究所



小学4年生で山の魅力に触れた著者は、1975年、エベレスト女性登山隊として女性で世界初の登頂を果たす。山への思い、人との出会い、子育てや病を語る。最終章の被災した東北の高校生を富士登山に招待する活動は、2016年に亡くなるまで続けた。

『霞の渚 石牟礼道子自伝』

石牟礼 道子 著
藤原書店



天草で生まれ、水俣川河口に移り住み育った石牟礼道子(1927-2018)にとって、「文学と有機水銀はお互いに敵対関係のようなものだった」。これは文学で書ける題材だろうか、と自問した水俣病問題を『苦海浄土』として著わす背景が綴られる。

『吉屋信子 隠れフェミニスト』

駒尺 喜美 著
リポポート



いま現在でも社会は吉屋信子を充分には理解できないだろう、と著者はいう。少女たちが愛読した『花物語』、率直にフェミニズムが表明されているという『女の階級』など、数々の大衆小説を裏打ちする「根底からの」フェミニズムを解説する。

[女性の自伝・評伝に関連する図書・資料]



『辰巳浜子 家庭料理を究める』
江原 恵 著
リポポート



『フリーダ・カーロ 生涯と芸術』
ヘイデン・エレラ 著
野田 隆/有馬 郁子 訳
晶文社



『キャロル・キング自伝 ナチュラル・ウーマン』
キャロル・キング 著
松田 ようこ 訳
河出書房新社



『わたしを生きる女たち 伝記で読むその生涯』
楠瀬 佳子/三木 草子 編
世界思想社

利用案内

らぶらす資料コーナー(ライブラリー)へようこそ！

- ◆らぶらす資料コーナーでは、およそ1万9千点の書籍やDVD、行政資料などを所蔵しています。
- ◆運転免許証や健康保険証など、住所とお名前の確認できる書類をお持ちいただければ、その場で利用者登録ができます。◆1回につき3点まで、2週間の貸出が可能です(AV資料1週間まで)。
- ◆貸出中の場合は予約ができます。◆らぶらすのホームページから図書・資料が検索可能です。

らぶらす開館時間：9:00-22:00

図書貸出時間：9:00-21:30

休館日：毎月第3月曜日(祝日の場合はその翌日)及び年末年始



新着図書から



『フェミニストとオタクはなぜ相性が悪いのか 「性の商品化」と「表現の自由」を再考する』

香山リカ／北原みのり 著
イースト・プレス

「男も女も平等に権利や機会を与えられるべき」著者二人の思いは一致するが、エロはあらゆる表現・文化において性差別か？ フェミニストとオタクの間の埋まらぬ溝で、フェミニズムに自らの言葉を探した北原みのりと、オタク文化をバックグラウンドに持つ香山リカが、対極の視点から女性の性と「自己決定」について掘り下げる。

フェミニズムから



『ジェンダーとセクシュアリティで見る東アジア』

瀬地山角 編著
勁草書房



『日本のフェミニズム since 1886 性の戦い編』

北原みのり 責任編集
河出書房新社



『皿洗いの、どっち？ 目指せ、家庭内男女平等！』

山内マリコ 著
マガジンハウス

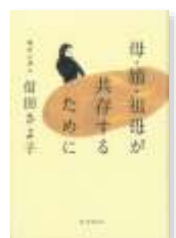
ニートを脱した新米小説家の「わたし」が「彼氏」との同棲から結婚生活まで、家事シェアを模索する。「皿洗いの類まれなる面倒くささ」や“食事のあと彼氏が床でねはんのポーズ”等、家事にまつわるエピソードや思いに「わたし」頑張れと応援したくなる。女性目線だけでなく男性目線からの「男のいいぶん」コラムも、誰もが思い当たるエピソードが満載。

家庭・家族から



『国家がなぜ家族に干渉するのか 法案・政策の背後にあるもの』

本田由紀／伊藤公雄 編著
青弓社



『母・娘・祖母が共存するために』

信田さよ子 著
朝日新聞出版



『暗い時代の人々』

森まゆみ 著
亜紀書房

満州事変勃発(1930年)から太平洋戦争終結(1945年)までの「暗い時代」に立ち向かった9人の評伝。名演説によって軍部と戦争を批判した斎藤隆夫、女性運動に奔走した山川菊栄、欧州をめくりナチスの台頭を見た竹久夢二、治安維持法による女性逮捕者第一号の九津見房子らが、精神の自由のために点した小さな灯火をたどる。

歴史から



『サフラジエット 英国女性参政権運動の肖像 とシルビア・バンクハースト』

中村 久司 著
大月書店



『女系図でみる驚きの日本史』

大塚 ひかり 著
新潮社

絵本

■『とてとてもサーカスなフロラ』

J・センダック 文/M・センダック 絵/江國 香織 訳
集英社



センダック兄弟の共作。サーカスで生まれ育った女の子が、“外の世界を知りたい”とひとりてサーカス小屋を抜け出す。兄ジャックは少女の不安な気持ちをていねいに綴り、『かいじゅうたちのいるところ』で名高い弟モーリスがサーカス世界を鮮やかに描く。

コミックス

■『夜廻り猫 今宵もどこかで涙の匂い』

深谷 かほる 著
KADOKAWA



「泣く子はいねが〜」秋田県出身・遠藤平蔵は涙の匂いを探して日々夜廻りする野良猫である。ひとり心で泣く人間の話を聞き、時にはただ寄り添う。心優しい人間達と心優しい野良猫の心温まるストーリーの数々。

DVD

■『トークバック 沈黙を破る女たち』

坂上 香 監督
2014年 制作 日本



サンフランシスコの刑務所で始まった女だけのアマチュア劇団の新しい活動は、元受刑者とHIV/AIDS陽性者とのコラボレーション。女性たちが、暴力や薬物依存など自らが味わったどん底と、生き方を模索する姿を舞台に放つ。

世田谷区立男女共同参画センターらぶらす
〒154-0004 世田谷区太子堂1-12-40 グレート王寿ビル3階
TEL: 03-6450-8510 FAX: 03-6450-8511
ホームページ <http://www.laplace-setagaya.net/>

次号は2018年9月
発行予定です



らぶらすHP



Facebook



Twitter